

平成29年度 厚生労働省委託事業 人生の最終段階における医療体制整備事業 報告

神戸大学医学部

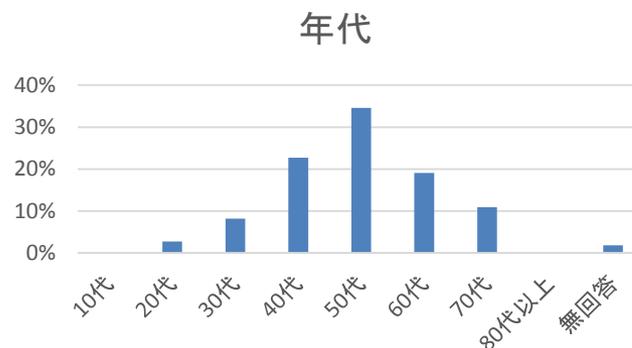
木澤 義之

医療従事者向け研修会

- 2017年8月～2018年1月に12回開催
- 札幌、福島、つくば、東京、名古屋、奈良、和歌山、福井、高松、下関、長崎、熊本
- 合計978名の医療福祉従事者が参加
- 医療福祉従事者の他に、行政関係者、医師会、看護協会、などがオブザーバー参加

市民公開講座の実施

- パンフレットと映像資料の作成
- 平成30年1月21日（日）に東京（イイノホール）で開催
- 参加者：110名
 - 平均年齢54歳
 - 男女比：女性65%
 - 定期的な医療機関の受診：50%が「はい」と回答
 - 生命に関わる病気に罹患：11%が「はい」と回答



市民公開講座の概要

- 目的：一般市民を対象として、「これからの治療やケアについて考える」ことを通して、人生の最終段階における医療について考え、自分の信頼できる人と話し合っておく機会を提供すること、現在までに普及啓発用に作成した資料の評価を行うこと。
- プログラム
 - 13:30-13:45 事前質問票記入
 - 13:50-14:20 講演（櫻井なおみさん）「あらかじめこれからの治療・ケアについて話し合うことの重要性」
 - 14:20-15:30 演習（木澤義之）「これからの治療・ケアについて考える」
 - 15:30-16:00 講演（江口恵子さん）「あらかじめこれからの治療・ケアについて考えておくことの重要性」
 - 16:00-16:15 事後質問票記入

アンケートの結果から

● 参加動機

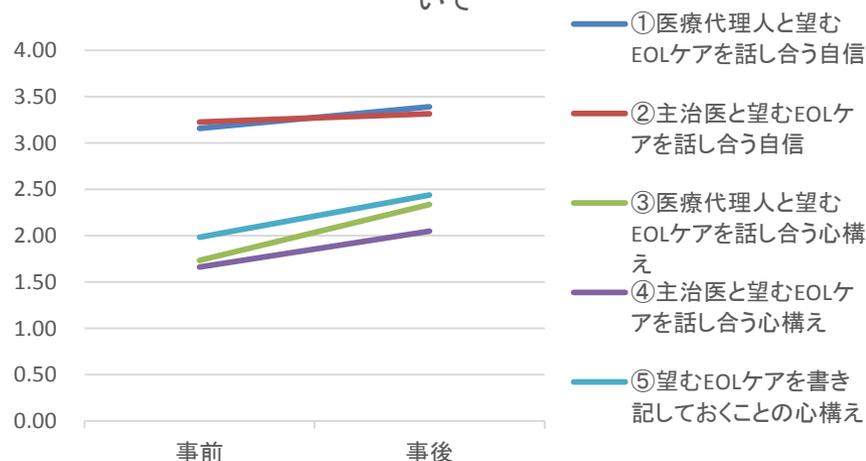
- 人生の最終段階の医療に興味があった (41%) アドバンス・ケア・プランニングに興味があった (33%)

● プログラムの内容について

- 講演毎に集計、いずれも9割以上の参加者が役立ったと回答

● 講座の前後で話し合いを行う自信や心構えのスコアが増加

2. 人生の最終段階において望む医療やケアのことについて



● パンフレットについて

- ビデオで具体的な例を出してもらったのでいろいろな考え方の中で自分がどうしたいのか考えやすいと思った
- 項目(質問)が無理強いではないこと、患者の意志に寄り添うことに重きを置いていて安心した。自分がこの用紙を手渡された時、少しずつでも記入できるのでは? と思った。
- TV、新聞等で同様の準備をするアドバイスを読む/聞いたりすることはあるが他人事でした。今回の講座で具体的映像やアンケートなどを通して実際にすべきことをあらたに認識しました。近いうちに家族内で話し合いの場を持ちたいと思います
- 具体的な治療やケアについてイメージしにくいので、例示を多くしてほしい

パンフレットに関する意見

- 全体に関すること
 - 健康人を対象とするものと病気を持つ人のものを分けてはどうか（Step3以降が書きにくい）
 - フォントが小さい
 - 字が多い
 - 自由記載欄を多くしたほうが良い
 - DVD併用は良いが、高齢者はWebにアクセスしにくいことに留意
 - 家族用のパンフレットがあってもよいのではないか
- 各ステップに関すること
 - 医療代理人がどのようなものを指すのか、後見人とどこが違うのかなどの解説が必要
 - 例をもう少し豊富に載せたほうが良い
 - 具体的な治療やケアが想像できないので、選択肢を選びにくい
 - 記載日が記入できるといい
 - 医学用語がわかりにくいところがある、例えば昏睡、など